
御令嬢と紳士

神童サーガ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

御令嬢と紳士

【Nコード】

N4413F

【作者名】

神童サーガ

【あらすじ】

女の子と青年の話です。女の子が、ご褒美として、ねだったのは・・・？場所は、御令嬢に相応しくない。

「貴女は、どうして・・・僕を苦しませるのですか？」

「だ、だって・・・仕方無いじゃない」

某日某場所にて、21歳の青年と17歳の女の子がいました。

「好き嫌いはいけませんって何度言えば分るんですか!？」

「嫌いな物は嫌いなんだもん!!」

先ほどの空気が変わり呑気な会話だった。

どうやら場所は喫茶店だった。

BGMが煩いせいか、二人の声は迷惑の域にならなかった。

「壱岐さんは、私を思ってくれないの!？」

「思ってます。紗枝様は偏食が多いです。育ち盛りの貴女を、こんなにも思ってる者はいませんよ」

女の子は、紗枝^{サエ}で、青年は、壱岐^{イチキ}というらしい。

見た感じは、お嬢様と執事だ。

紗枝の格好は、レースのピンクのワンピースだった。
壱岐の格好は、スーツだった。
だから、普通の関係には見えない。

実際に紗枝は、お嬢様なのだ。だけど、壱岐は執事では無く自由業と言った。

「ピーマンなんて・・・何かの化け物を思い浮かぶ」

「・・・食べないうちは帰りませんから」

鬼ー！とプクツと頬を膨らませた紗枝に、笑う壱岐。

「・・・紗枝様が食べ終わるまで、いますから」

「うゝゝ。いじわる」

はいはい、と軽くあしらった。
その態度に怒った紗枝。

「壱岐さんには嫌いな物は無いの？」

「ありますよ・・・。紗枝様が怒るのとか」

「!？」

壱岐の言葉に、怒りが消えた紗枝。
でも、まだ不完全っぽくて視線を窓の外に向けた。
人が忙しく歩いてる。

「もう一つは、愛しい人の泣き顔ですね」

「え・・・何か言った？」

外に意識がいったせいか、壱岐の言葉を聞き逃してしまった。
も一度聞いたが、何でもありません、と軽く逸らされた。

「むゝ。食べ物では？」

「何でも食べますよ。残したら、本当に化け物が出ますよ」

「うつ・・・頑張る」

純粹なのかもしれない。ゆっくりながらも、口に含んだ。うえー、
としながらも食べた。

「水と一緒に食べると体に良くありませんよ」

「食べたあ・・・」

壱岐の言葉を聞いてなかったのか、丁度重なったのか……。

「ちゃんと食べたご褒美に……。なんでも言う事を聞いてあげますよ」

「やった!」

たかが嫌いな物食べたからってご褒美が貰えるなんて羨ましい。

「恋人だよね? 私達って……」

「そうですね」

二人は恋人同士だったのだ。
ただの関係じゃないとは思ってたけど。

「それなのに、手を繋ぐしかしたことが無いよね。だから、き……」

「……き?」

顔を下に向けてるから、壱岐からは紗枝の表情が読めない。

「・・・キスして？」

「え？」

紗枝の耳が赤かった。壱岐も呆然としてるだけだった。

「・・・ご、ご褒美で・・・ダメ？」

「・・・まあ、紗枝様は頑張りましたから・・・目を瞑ってください」

壱岐は、ふう、と溜め息を吐いてから、少し腰を上げた。

紗枝は、目を瞑ってる。ドキドキと、警報のように分りやすく鳴っている。

テーブルを乗り越えて、紗枝の頬を両手で覆った。

二人の距離は近付いてく。

周りの音なんて聞こえない。

「・・・んっ」

最初だったので触れるだけのキスだった。

お互いの息が、顔に掛かる。

終わった後、ボーツと見つめ合う。

「大好きです。紗枝様」

「私も・・・壺岐さん」

二人は、また触れるだけのキスをした。

客達は二人を見ても、からかう風に見るのではなく、優しい目で見守っていた。

この二人に、永遠の愛がありますように・・・。

（後書き）

なんか初々しい恋愛でした。いつまでも、この気持ちは忘れちゃダメだね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4413f/>

御令嬢と紳士

2010年10月12日17時08分発行